

# 地歴公民(地理) 一橋大学 (前期) 1/1

## <全体分析>

試験時間 120 分

### 解答形式

記述式3問, 論述式10問\* (150字×2, 125字×4, 100字×4 計1,200字)

\*うち記述式を含む論述式が2題

### 分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

### 出題の特徴や昨年との変更点

教科書だけでなく、新聞などのニュースにも注意しないと解答の方向性が見いだせないような新しい話題からの出題が今年度も見られた。

また、課題文を読ませたり資料(図表など)を読み取らせたりする出題形式も例年どおりである。一昨年度3点に減少した資料(図1点, 表2点)が, 昨年度は5点(表5点), 今年度は7点(図4点, 表3点)と, 以前のように多用(3年前は図4点, 表4点)する形式に戻った。

### その他トピックス

特になし。

## <大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	記述式 論述式	コロンビアの 農業政策	問1は設問の細かな指示に従って述べればよい。問2は米国におけるバイオエタノールの余剰がポイントである。問3・問4はコカが辺境地で栽培されていることや, 高値で買い取られていることに触れよう。	標準
II	論述式	国際的な生産分業	問1で後方参加が増加したことを読み取り, 問2の日本企業の対応で, 中国への中間財部門の移転に触れ, 問3は中国のコロナ封鎖政策で中間財が入手できず, 日本で生産混乱が生じた, という流れで考えよう。	標準
III	記述式 論述式	人の移動	問1の「その傾向がもたらした生活スタイルの変容」は問題の意図がわかりにくい。問2の政令指定都市名はトリップエンド数から考えるとよい。問3の喫緊の課題では人手不足に言及したい。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## <学習対策>

- 近年は高校地理で学習する知識で対応できる問題が増えているが、そのレベルから一步踏み込んで考える習慣を身につけておくこと。また、難解な文章が多いので、正しく読み取る訓練をしておこう。
- 地域では、東～南アジアやラテンアメリカを中心とする発展途上地域が、分野では、農業、鉱工業、貿易や交通・通信、観光関係が、一橋大学入試の頻出テーマである。
- 100字～150字の論述練習を積むとともに、今年度は出題されなかったが200字以上の論述の訓練も行っておくこと。文章作成能力も重要であり添削指導を受けることが望ましい。
- 統計資料を判定する訓練を行うとともに、資料の中から「ポイントとなる部分」を早く見抜く能力を養っておこう。また、統計と地図を結びつけて体系的に捉える練習をするとよい。
- 歴史教科書や新書などを利用して、一橋大学入試でよく問われる近代の史実も学習しておくこと。また、白書・新聞などを活用し、新しいテーマや話題についても理解を深めておこう。